

第 2-4 回

(2018.4.18,4.25,5.2)

資料調査の入り口

須田千里教授(人間・環境学研究所)

■ 第 2 回:演習(KULINE の使い方) 4 月 17 日(火)

- ✓ 場 所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者: 21 名
- ✓ 配布物: 授業で使うツールの紹介、KULINE 講義資料、
KULINE 演習問題、KULINE 演習問題解説

《前半》

➤ 北村先生によるスタッフ紹介

➤ 須田先生による授業の概要・目的の説明

➤ 授業で用いるツールの紹介(14:45 - 14:55 担当:山上)

- 冒頭に北村先生より「資料調査の入り口」を担当する教員および演習補助者の紹介、須田先生による、本パートの概要・目的の説明がなされた。その後、演習補助者より本授業で用いるツールとして、授業 HP、図書館室の Twitter アカウント、学習サポートデスク、PandA の紹介を行った。

➤ KULINE 講義(14:55 - 15:40 担当:宮田)

- 参考文献リストの役割やその記述例、図書と雑誌の違いを説明し、参考文献リストから書誌情報を読み取る方法を解説した。また、読み取った書誌情報を使用した KULINE の検索方法の説明を行い、検索のテクニックや検索結果の見方を例示した。
- 例年と異なり、図書と雑誌を持参して参考文献リストの記載と現物との対応関係を確認してもらった。

《後半》

➤ KULINE 演習(15:40 - 16:00)

- KULINE を用いて、図書・雑誌の所蔵を検索する全 6 題の演習を実施した(前半 2 題は前の講義内で説明した)。演習補助者は受講生の状況を見てアドバイスをを行い、質問対応にあたった。
- 例年と異なり、文献の種類(図書 | 雑誌)を解答させる問題を追加した。

➤ KULINE 演習解説(16:00 - 16:15 担当:大西)

- 演習問題の後半 4 題について解説を行った。
- 例年と異なり、この演習問題の解答は評価に含めないこととした。

■ 第3回:講義 4月24日(火)

- ✓ 場 所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者: 20 名
- ✓ 配布物: 須田先生講義資料、宿題、附属図書館 1F 参考図書コーナー書架 MAP

➤ 須田先生の講義 -大学レベルの論文の作成- (14:45 - 16:10)

- 須田先生から以下の内容について講義があった。
 - ・論文とは: エッセイ、感想とは異なり、根拠を挙げながら独自の見解を示すことが求められる。
 - ・概念の整理: 論文を作成する際には、細かい部分にいきなり取り組むのではなく、自分の研究テーマを大きな枠組みの中で捉えて問題関心を明確化しなければならない。そのためには研究テーマの上位語・下位語・関連語を検討して概念整理を行うことが必要。
 - ・参考図書の活用: 論文の作成には、まず自分の研究テーマに基づいて百科事典等の「参考図書」を引くことが必要である。参考図書を調査することで、
 - (1) 自分の研究テーマがどの程度メジャーか
 - (2) 自分の研究テーマの主要参考文献は何か
 - (3) 自分の研究テーマの権威者は誰かを知ることができる。これらは研究における基礎知識として、必ず押さえておかなければならない事柄である。
 - ・論文執筆の心構え: 参考図書から基礎文献、さらに個別論文と読み進める中で、先行研究の補足や一部修正、新説の提示等が可能との手ごたえが得られれば、論文執筆へと進む。その過程で、計画を立てる習慣をつけることが重要である。もし先行研究を読み進めるうちに、新規性のある論文を書くことが難しそうな場合は、関連する別のテーマに移るか、ささやかでも良いので先行研究を補足・修正する。
 - ・次週課題の予告: 次週(第4回)はこの講義の内容を踏まえ、受講生の関心に応じた、テーマ設定、概念整理、参考図書の調査、基本文献の所在確認を内容とした課題(図書館実習)を附属図書館で実施する。

➤ 宿題の説明 (16:10 - 16:15 担当: 山上)

- 演習補助者から配布した宿題について説明した。講義の内容を踏まえて、自分の関心のあるテーマを2つ設定し、それぞれについてアプローチする分野、キーワードの概念整理、調査テーマのタイトルを回答するよう指示した。
- 次週の図書館実習は宿題で設定したテーマのうちの1つを利用して実施するため、回答した宿題は次週必ず持参すること、教室が附属図書館に変更になることを併せて連絡した。
- 例年とは異なり、次週の図書館実習を実施する附属図書館 1F 参考図書コーナーの書架マップを事前に配布した。

■ 第4回:演習 5月1日(火)

- ✓ 場 所: 附属図書館 3階講習会室 / 同 1階参考図書コーナー
- ✓ 出席者: 17名
- ✓ 配布物: 図書館実習説明資料、図書館実習解答用紙、事典リスト、
附属図書館 1F 参考図書コーナー書架 MAP、課題提出方法説明資料

《前半》

➤ 先生による概念整理についてのフォローアップ (14:45 - 15:05)

- 事前課題として課した宿題(実習で調査するテーマ・キーワードの設定)について受講生から挙げた質問に須田先生が回答した。

➤ 図書館実習説明 (15:05 - 15:20 担当:山上)

- 図書館実習に向けて、前回の内容を復習した。資料の選択基準や採点のポイントに加えて、過去の実習で寄せられた質問に基づいて、KULINE や参考図書の画面コピーを使いながら内容判断の例を具体的に説明した。

《後半》

➤ 図書館実習 (15:20 - 16:10)

- 附属図書館 1F 参考図書コーナーへ移動して実習を行った。前回の宿題で設定したテーマ・キーワードを利用して適切な参考図書を2点探し出し(課題5)、探し出した参考図書を比較してより参考文献の豊富な1点を選び(課題6)、参考図書の記載内容に基づいて、学内で所蔵する参考文献または項目執筆者の著作を調査する(課題7)ように指示した。演習補助者は館内各所にて、受講生の誘導と質問対応にあたった。時間になったら、実習が最後まで終わっていない場合でも講習会室へ戻るように指示した。

➤ 実習用紙提出方法の説明 (16:10 - 16:15 担当:宮田)

- 実習は授業後も引き続き取り組むことができること、PandAの「課題」機能から期限までに提出することを説明した。PandA上での提出方法、提出期限、授業後に実習に取り組む際の諸注意(図書館室の開館日程等)について説明した。解散時に第3回で課した宿題を回収した。

■ 次年度への申し送り

◇ 「論文」に関する説明の必要性(アンケートの意見・要望より)

→授業構成上、「論文」に関する詳しい説明は後半の総合演習パートでカバーしている。資料調査の入り口パートでは学生にその旨を伝える。

◇ 資料調査の入り口パートでの予習について(アンケートの意見・要望より)

→このパートで課外の時間を使うのであれば、第4回で図書館実習を実施する附属図書館参考図書コーナーを事前に見てきてもらうという内容でどうか

◇ 第2回のKULINE演習について(担当内で検討)

→書誌情報の読み取りやKULINEの操作方法など、学内図書館室の講習会・ガイダンス等の取り組みと重複する内容が含まれている。これらの講習会・ガイダンスと完全に同じ内容にはできないにせよ共通部分を流用できないか。各図書館室ウェブサイトの講習会記録アーカイブページをアピールにもなるのではないか。

◇ データベース: ジャパンナレッジの取り扱いについて(担当内で検討)

→後半の総合演習パートで本格的に取り扱う構成だが、データベースの性質・重要度からこのタイミングで取り扱いしてもよいと思われる。具体的には第4回の図書館実習後に、実習と同じテーマでジャパンナレッジにより参考資料を探す課題を課し、冊子体とデータベースを比較してもらうような内容ではどうか。

(文責:宮田 怜)